

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

虎の門病院消化器外科（下部消化管）での国内外科研修を終えて

国際医療福祉大学熱海病院外科

高村 卓志

この度、令和4年度日本臨床外科学会の国内外科研修プログラムにより2022年8月29日～9月4日までの1週間、虎の門病院消化器外科（下部消化管）で研修をさせていただく機会を頂戴いたしましたので、ご報告させていただきます。

私は神奈川県立がんセンター消化器外科（大腸）で修練させていただき、内視鏡外科技術認定医を取得する中で大腸外科・内視鏡外科の深淵を知り、かつ自らの未熟さを痛感し大腸骨盤外科医としてさらなる研鑽が必要であると感じました。

そのため、国内有数のhigh volume centerである虎の門病院消化器外科（下部消化管）を選択させていただきました。

研修期間中は主に手術見学を中心に参加させていただきました。

今回の研修を通じてまず初めに感じたことは、チーム全体で和気藹々と和やかな雰囲気での診療が行われていることでした。しかしながら、妥協できない重要な郭清や脂肪の切離面および直動脈の血流等については逐次前立ちの上級医の先生や外回りの上級医の先生から指導されながら、レジデントの先生が執刀をしておりました。

また、前立ちの上級医の先生方による場の展開・手技は統一化されており、執刀するレジデントの先生方にとっては型を学びやすい環境であると強く感じました。

その他、黒柳先生が非常にコスト面にも十分に配慮されている点も感銘を受けました。可能な限りリユース可能な機材を使用しており、原則電気メスを用いての手術ですが、間膜処理で必要となるLCSについても可能な限りリユース可能な機材を使用しており、医療経済面からも素晴らしい取り組みと感じました。

手術症例や病棟患者対応、術前内視鏡・造影検査、緊急患者対応など多忙にも関わらず、標本整理・患者対応などレジデントの先生がみな協力して助け合っている点も印象的で、術中の結紮・縫合など初期臨床研修医も含めた屋根瓦式の指導体制が構築されている点も良い点と感じ、自らの初期臨床研修時代を思い出し懐かしい気持ちになりました。

また、私と卒年数が近い年代の平松康輔先生、福井雄大先生とお話させていただき、手術・治療方針など議論させていただくことも非常に刺激を受け、よい経験となりました。

私事ですが、先日、日本外科学会教育委員会U-40ワーキンググループ委員に選出いただき、現在活動を行っておりますが、今後も後進指導含めた外科教育についてもこの経験を生かしていきたいと存じます。

コロナ禍の折、オンラインでの交流が多くなる昨今ではありますが、実際の手術見学を行う中で手術動画からでは知り得ない細かな気遣いや教育方法など、現場に足を運び他施設と交流することの重要性を再認識させていただきました。

末筆となりますが、このような貴重な機会を与えていただきました、日本臨床外科学会の万代恭嗣会長・国内外科研修委員長の高山忠利委員長をはじめ学会事務局御関係者の方々、研修を快諾いただきました虎の門病院 副院長・消化器外科部長の黒柳洋弥先生、アテンドいただきました花岡裕先生ならびにス

スタッフ・レジデント・初期研修医の先生方，さらに推薦いただきました国際医療福祉大学熱海病院の池田佳史病院長，不在中の業務を担っていただきました外科スタッフの先生方に深謝致します。



虎の門病院外観